テクノロジーと法の未来へ
Vol.10

ボランティア活動×ゼミ
地域の課題の解決に向けて

国際情報学部国際情報学科3年
私立春日部共栄高等学校（埼玉県）出身
深井（ふかい） 博匡（ひろまさ）

ボランティア活動

私は以前から「地域活性化」や「地域創成」に興味を持っており、地元のボランティア活動や市民活動に参加していました。そして、その活動を通して地域の活動に参加する若者が少ないということを知りました。たとえば、「障碍者や高齢者の自立支援のための農業活動を行う」「高齢者へスマホの使い方を教える」「学習環境に恵まれない子どもたちへの学習支援をする」といった活動を行っている団体がありますが、どの団体も運営側と参加者側の双方で高齢化が進んでおり、若者がほとんど参加していないのが現状でした。これが続けば、地域社会にとって重要な役割を果たしている団体の多くが、高齢化のために活動困難になるのではないかと考え、その解決を目的とする団体が必要ではないかと思うようになりました。

以上のような経緯から、地元の友人たちを誘い、「若者を地域の活動に呼び集めること」「若者が主体的に地域の課題に挑戦できる環境の構築」をめざす団体を立ち上げました。主に地域のボランティア活動のお手伝いをしながら、活動内容の詳細や感想などをSNSで発信することで、若者に地域の現状を知ってもらえるような活動をしています。これにより若者の参加者が劇的に増えたわけではありませんが、地域の活動に高校生の参加者が見られるようになり、情報発信の効果が出てきたのかなと考えています。また、団体の目的などが評価され、野田市社会福祉協議会に正式な団体として登録していただくことができました。今後も地道な活動を継続していきたいと思います。

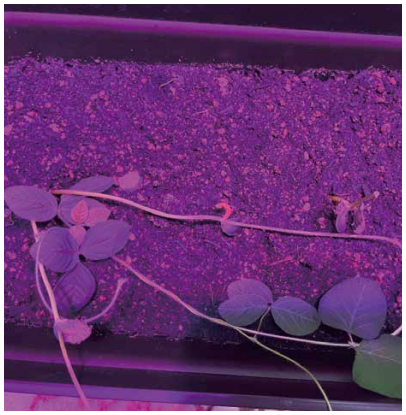
このようなボランティアの活動を通して、協調することの重要性を学ぶことができたと感じています。ボランティアに参加する人たちは年齢や職業がさまざまで、人によって考え方や価値観もさまざまでした。

団体の立ち上げの写真

また、趣味の感覚で参加している人もいれば、地域活性化のために来ている人、人との楽しい交流に重きを置いて参加している人もいて、ボランティアに参加する理由もさまざまでした。このように多様な人々が入り混じる中では、協調性の精神がとても重要だと実感しました。ボランティアの場合は、部活やサークルのように志を一つにする必要はなく、コミュニケーションをしっかり取ってお互いの意思を理解し合いながら協力することで円滑な活動ができると思います。

ゼミの活動

2年次の前期を終えた後、ゼミの選択にはとても悩みました。高校の頃から文系で数学はあまり得意な方ではなかったため、最初は法律系のゼミに入ろうと考えていました。しかし、「障碍者や高齢者の自立支援のための農業活動を行う」ことを目的としたボランティアに参加して、より簡単に


失敗した枝豆

農業ができるようになれば自立支援に役立つのではないかと思うようになり、ＩｏＴ農業の研究ができそうな吉田雅裕先生のゼミに入ることを決めました。

現在はPythonによる画像認識を用いたＩｏＴ農業の研究を行っており、土の乾きをカメラで認識して自動で水やりを行うプログラムの作成を行っています。最初は野田市で有名な枝豆を対象とした自動水やりに取り組んでいたのですが、室内のＬＥＤの光量では健全に成長せずツルのようになってしまったため、光量が少なくても育つレタスに対象を変更しました。農業とＡＩ、どちらも初めての挑戦で失敗は多いですが、吉田先生や同じゼミの友人からのサポートを得つつ地道に頑張っています。

活動中の写真

吉田先生のゼミはかなり自由で、やりたいことをやらせてくれます。同期にはＡＩを用いたチャットボット、ゲーム、自動運転の研究をしている人や、コンペにエントリーしてコードの作成に励んでいる人などさまざまな人がいます。今後もこういったゼミメンバーの研究内容からアイデアを得たり、反対に与えたりしながら協力してゼミの活動に励んでいきたいと思います。

最後に

ボランティア活動やゼミ、国際情報学部の講義で学んだことは、学術的なものだけでなく実践的なものも多いと思います。こういった知識や経験を実際に使えるスキルとして落とし込み、将来に活かしていきたいと思います。